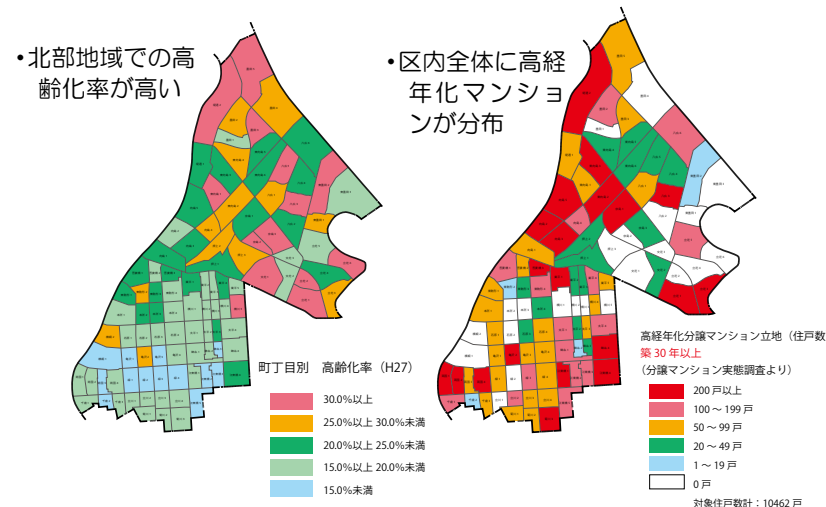


上位計画における主な視点 (資料3_p3~)

- 国の都市づくりに係る施策の方向性
 - ・少子高齢化とコミュニティの再構築
 - ・都市構造のコンパクトとネットワーク
 - ・温暖化や災害等対策に関する社会的要請の増大
 - ・効果的かつ効率的なまちづくりの推進に向けた都市のマネジメント
 - ・まちづくりにおける民間活動の重視
- 東京都の目指す都市構造・地域区分
 - ・これまでの集積、環状メガロポリス構造を最大限活用し、コンパクトで多様な特色ある地域構造をつくる
 - ・区全域を含めて広域拠点となる中枢広域拠点域を位置づけ、交流と新たな価値づくり、多様な特色・個性による魅力の向上等を図る
- 墨田区の基本計画
 - ・協治（ガバナンス）を区の基本理念とした基本計画
 - ・行政評価システムを組み込んだ基本計画
 - ・今後の公共施設等の整備を示した基本計画
 - ・「”夢” 実現プロジェクト」を掲げた基本計画

墨田区の現況 (資料3_p9~)

- 人口・世帯の動向
 - ・2030年までは人口増加傾向が継続すると予測されている
 - ・単身世帯(高齢者単身世帯含む)・高齢者のみ世帯が増加する一方で、ファミリー世帯は転出超過傾向にある
 - ・区内従業者が多く、職住近接した住まい方がみられる
- 産業活動
 - ・区内の事業所は多様な業種が集積しているが、近年、製造業・卸売・小売業事業所数が減少し、産業構造が変化しつつある
- 土地・建物の変容
 - ・商店や町工場等の減少の一方で集合住宅や戸建て住宅が増加
 - ・比較的住戸面積が狭い中高層集合住宅が増加しつつある
 - ・鉄道沿いや幹線道路沿いで中高層集合住宅化が進む



墨田区のまちづくりの検証・評価 (資料3_p22~)

- 【土地利用】
 - (1) (2) 高度地区の絶対高さ制限の区全域導入や集合住宅条例施行により地域の住環境に応じた市街地形成を誘導
- 【都市施設】
 - 道路
 - (1) 再開発事業にともなう曳舟駅周辺の道路整備や、細街路整備事業が進捗
 - (2) スカイツリー周辺及び両国地区のバリアフリー化を実施中 (H27~)
 - (3) (4) 自転車利用総合方針を策定し錦糸町駅周辺の自転車駐車場整備を実施、自転車ネットワークは見直し・再検討が必要
 - (5) 橋梁の架け替え、改修を長寿化計画に基づき順次実施
 - 公共交通
 - (1) 京成電鉄押上線の連続立体化により踏切等 9 箇所解消、東武伊勢崎線の連続立体化が事業認可
 - (2) (3) 区内循環バス 3 路線が運行開始、押上駅前広場にバス結節点と自転車駐車場を整備
 - (4) 船着き場の一般開放 (4 か所) や両国リバーセンター検討により舟運活用を推進
 - 公園・緑地
 - (1) 歴史文化を活かした公園改修等 (4 箇所) を実施、新規は用地確保が難しい
 - (2) 旧中川の水辺空間や市街地整備事業による創出土地で公園整備を実施
 - 河川
 - (1) (2) 両国リバーセンター検討、北十間川の整備や内部河川の耐震護岸整備における水辺空間を整備、荒川スーパー堤防は合意形成が難しい
- 【防災】
 - (1) (2) 不燃化・耐震化は北部を重点的に拡充、全区不燃化率 69.3% (H27 年度末)、密集市街地整備 (3 地区) により避難道路の拡幅整備が進捗
 - (3) 事前復興に係る体制づくりや方針は未実施
- 【定住】
 - (1) 集合住宅条例、分譲マンションの適正管理条例等により、地域ごとの良好な住環境の形成・維持を実施
 - (2) 良質な住宅認定制度の子育て型・防災型の住宅整備支援を拡充
 - (3) 民間施設のバリアフリー整備の補助対象を拡大、介護施設は用地確保により新規整備が難しい
- 【環境】
 - (1) (2) 民間施設の温暖化防止設備整備や緑化助成、学校屋上の太陽光パネル設置や緑化を実施
- 【景観】
 - (1) 景観計画に基づく亀沢地区景観形成重点地区指定や両国観光グランドデザインによる景観整備を実施
 - (2) (3) (4) すみだ3M 運動や商店魅力アップ事業、地区まちづくり団体認定 (5 団体) 等
- 【産業】
 - (1) 観光回遊性の向上のため、台東区との連携協定や北十間川・隅田公園観光回遊路整備の指針作成
 - (2) (3) すみだ3M 運動、商店魅力アップ等産業振興を継続的に実施

各課ヒアリングから得られた今後の課題 (資料4)

土地利用 都市施設	○開発協力などによるオープンスペースの確保・北十間川などの都市環境整備の推進がこれからより重要となる
都市施設 防災	○既存公共施設や建築物に対する耐震化・長寿命化・ユニバーサルデザイン・防災対策など適正な維持管理が必要
定住	○子育て世帯や高齢者、障がい者や外国人居住者など、多様化する人口構造に対応した生活支援サービスが必要 ○定住促進に向けた環境整備やまちのイメージアップが必要
環境	○緑の視認性を考慮した緑感向上の取組みの強化が必要 ○社会的要請を踏まえ、土地利用や交通など総合的な温暖化対策の取組みが必要
景観	○魅力あるまちづくりに向けて、地域の特色や個性を活かしたまちづくりの強化が必要
産業	○ものづくりのまちとしてのイメージ強化が必要 ○多様な産業の集積するまちの強みを活かすことが必要
その他	○統廃合が進む公共施設へのニーズの多様化に民間の力も得ながら対応していくことが必要 ○人口増・構成変化に伴う社会状況を踏まえ、地域ぐるみで進める防災・福祉・教育等の取組みが重視されており、地域コミュニティの担い手発掘と活力維持が必要

区民の生活・意向 (資料5)

- 区民の生活スタイル
 - ・日常的な買い物先は身近な商店街エリアを利用、錦糸町へは区内全域から利用者が集まっている
- これまでのまちづくりに対する評価
 - ・まちづくり全般に対する満足度は3割程度
 - ・この10年間でまちづくりの進捗について評価が高いが、環境面での取組みに対する評価が低い
 - ・比較的南部地域のまちづくりの進捗について評価が高い
- これからのまちづくりについて
 - ・暮らしの利便性や防災性を求める意見が多い
 - ・働き続ける上で、子育てや介護ができる環境づくりを求める意見が多い
 - ・安心してまちあるきを楽しめる取組み、歴史文化を活かした景観づくり、観光施設の連携を求める意見が多い
- 協働のまちづくりについて
 - ・区の情報提供や参加の機会づくりへの評価は比較的高い

これからのまちづくりの課題

社会情勢の変化、社会的要請に係る課題

① 将来の人口構成の変化への対応が必要

- ・ 今後想定される少子高齢化の進展や将来的な人口減少社会を見据えたまちづくりが求められる
- ・ 子育てファミリー世帯や単身世帯など多様な世帯の定住を促す環境づくりが必要である
- ・ 超高齢社会の中、ユニバーサルデザインや住み慣れた地域での生活維持可能な環境整備、健康増進に資する場の充実が必要である
- ・ 外国人居住者の増加、言語や文化の違いに対して多文化共生が求められ、多様な暮らしが可能な地域環境づくりが必要である

② 災害への対応、安全・安心の確保が必要

- ・ 首都直下地震の想定など想定される大規模災害リスクへの対応が求められ、防災対策の強化・充実が必要である
- ・ 河川の洪水による水害や、集中豪雨による都市型水害などへの対応が求められ、総合的な水害対策の強化・充実が必要である
- ・ 都市施設の防災対策、密集市街地の改善の継続的な推進が必要である
- ・ 地域の防災・防犯力強化に向けた地域団体や事業者等多様な主体の参画による体制づくりの強化が必要である

⑤ すみだの資源と個性を活かした取り組みが必要

- ・ 墨田区の特徴である既存の製造業の産業集積や、特色ある事業所の創業支援などによる地域活力の維持・向上が求められる
- ・ 地域の成り立ちや町割り・寺社などの歴史・文化、職住共存する地域の個性を育み・活かすまちづくりの強化が求められる
- ・ 隅田川、荒川、内部河川など水辺空間や公園など水とみどりを活かした魅力づくりが必要である
- ・ 地域固有の資源を掘り起こし、国際観光都市としての地域の魅力づくりや価値の向上につなげていくことが求められる
- ・ 地域の人々のまちへの愛着を育み、地域との関わりや交流を増やし、活性化につなげていくことが求められる

⑥ まちづくりの実績を次世代に継承する取り組みが必要

- ・ 地域住民等の長年の協力により進めてきた木造密集市街地改善や道路公園等の整備、拠点地区開発により創出された都市空間を使いこなし、地域活性化につなぐことが求められている
- ・ ものづくりのまちとしての蓄積を活かし、まちのイメージ向上や人を惹きつける魅力として活かすことが必要である
- ・ 産業や観光、文化振興など、各分野の連携により、相乗効果が発揮できるまちづくりの推進が必要である
- ・ 墨田区における東京オリンピック・パラリンピックのレガシーとなるまちづくりの検討が必要である

③ 低炭素社会・循環型社会への対応が必要

- ・ 地球環境保全への意識が高まりつつある中、都市活動における省エネ化など温暖化対策の強化・充実が求められる
- ・ 再生可能エネルギーの積極的な導入や、新たな技術の開発・利用促進が求められる
- ・ 利便性の高い公共交通を活かした低炭素化の促進とともに、誰もが移動しやすいまちづくりの充実が必要である
- ・ 水辺空間を活かした緑地の確保や緑の視認性の向上など緑感を高める取り組みが必要である

④ 高齢化やニーズの多様化に対応したストックの更新・活用が必要

- ・ 成熟した都市空間の中、都市施設など既存のストックを活用したまちづくりが求められる
- ・ 老朽化した民間建築物等の更新や公共施設の再編・整備では、周辺まちづくりへの寄与と併せて施設の質や機能向上、適切な維持管理の視点を併せた検討が必要である
- ・ 防災や教育、福祉などのニーズの多様化に応じて、新たな仕組みや体制・場づくりなどの検討が必要である

⑦ 回遊性の向上や交流を強化する取り組みが必要

- ・ 地域で健康に暮らし続けられるまちづくりが求められ、充実した公共交通ネットワークを活かすとともに、まちを巡りたくなる歩行者・自転車空間の充実が必要である
- ・ 拠点整備地区と周辺地区の回遊動線の形成など、観光回遊の拡大、地域活性化につながる取り組みが必要である
- ・ 都市のアメニティの向上や災害時も含めた舟運活用の可能性など、墨田区の重要な資源である河川環境を積極的に活用したまちづくりの推進が必要である
- ・ 路地などで構成される下町らしい風情と防災対策との両立を図るまちづくりの検討が必要である

⑧ 持続可能な地域社会の実現に向けた取り組みが必要

- ・ 防災や福祉、教育など様々な面で地域コミュニティの維持・活力が求められ、協治（ガバナンス）の推進に向けた担い手の発掘・育成等が必要である
- ・ 住宅と産業の共存や、安全安心のまちづくりなどにおいて、事業者と地域とのつながりの強化が必要である
- ・ 若年流入居住者層の地域学習や地域活動に参加する機会や場を増やすなど、長く地域に住む住民との交流を促し地域コミュニティの活性化を図ることが必要である

墨田区の特性に係る課題

改定に向けた検討課題

- ・ 都市計画マスタープランの目標とする 20 年後には、区は人口減少に転じることが予測される一方、生活や産業等に影響を与える各種技術革新が見込まれている
- ・ 住宅・商業・工業の多様な用途でまちが構成されていることを活かし、社会情勢の変化に柔軟に対応していく必要がある

⇒ 墨田区の目指す都市の姿 ⇒ 実現に向けた取り組みの方向性

将来の都市像の検討

- 1 安全に安心して暮らせるまち**
 - ・ 様々な被害想定に応じた災害対策が充実したまち
 - ・ 地球温暖化に対応した都市環境や取り組みが充実したまち
 - ・ 老朽建物への対策が充実したまち など
- 2 多様な暮らしが実現できるまち**
 - ・ 多様な世代が暮らしやすいと実感できるまち
 - ・ 多様な機能の集積を活かし、職住バランスのとれたにぎわいと活力を感じるまち
 - ・ 「暮らし・働き・訪れる」それぞれの場の特色に合わせた水とみどりを守り育むまち など
- 3 個性がきらりと光るまち**
 - ・ 工場や商店が住宅と調和しつつ、様々な個性が磨かれ地域の質や価値の向上につながるまち
 - ・ 人々の営みや水とみどり、すみだらしい地域資源があるまち
 - ・ 地域らしさの発信、地域資源を活かした活気あるまち など
- 4 つながりを活かしたまち**
 - ・ まち中が回遊しやすく、魅力的な都市空間、安全で安心して歩ける道路環境
 - ・ 都市内をめぐる水とみどりのネットワークのもと、質の高い公共空間、多彩な活動が行われる場が様々にあるまち など

実現に向けた取り組みの方向性の検討

- ・ 将来像の実現に向けた取り組みの方向性として、各種施策が一体的に取組まれ、相乗効果を発揮していくための戦略の方向性を示すことが求められる

都市計画マスタープランはどうあるべきか

どのように実現していくか

どのような戦略をたてるか